

# ねじればね

VOL. 1, No. 1 (APR. 1956) - 近畿甲虫同好会々報 -

## 創刊のことは

私たちが本会創立以来懐いていた色々の計畫は中には実現して会員諸賢の御好評を得たものも可成りあるが又一方色々な支障によつて思うように実現出来ないものもあつて残念に思つてゐたが、漸く或る程度の基礎が確立したので、今回会の創立十周年を自祝し又会員諸賢の感謝の意を込めて、本誌「ねじればね」*Strepsiptera*を創刊、会員にお贈りすることとした次第である。

「ねじればね」は機関誌「昆虫学雑誌」の紙面を成可く重要な報告ばかりに充当するため、他の会報等の記事を收めることは勿論、会員相互の連絡などに紙面を提供したり、新しい研究・ニュースの紹介なども適當な方々にお願ひして試みたいと考えていて、当分年四回発行、頁数は内容に比例して増減するが、出来るだけ変化にとんだものとして行きたいと考えている。

前誌名とした「ねじればね」は既によく知られているように甲虫の仲間に入れられたり、或いは非常に近い独立の一目とされたりしている。興味深い寄生性の昆虫であり、今は一生寄主の体内に生活する体の關節もはっきりと分れなり幼虫形のもので、今が短期間寄生の体外に脱出して、扇状の翅でとび歩く興味深い習性をもつてゐる。この寄生を受ける寄主は現在、ウンカ及び蜂類が最も多く知られ、カメムシ及びバツタ類其他多くが次いで知られてゐる。昆蟲の中のオオハナノミや

(1)



クシヒゲネジレバネ

ツチハシミヨウなどと同じような過変態を示し、一令幼虫は三爪形幼虫で寄主の体内にいる母の体から脱出して寄主によつて花上や地上に運ばれ適当な寄主を見つける訳であるが、面白いことに寄生を受けた昆虫は生命を失うことがなく唯「ねじればね吸われ」という現象を起し生殖能力を失つたりするとのことである。甲虫同好者の多くは本会に生れその寄生者の存在である本誌にはこの「ねじればね」こそ最もかわいらしい名であろうと命名した次第であるが、せいぜい努力して Host に「ねじればね吸われ」を起さぬようしたりものと考えている。尚本誌は河野 洋幹事に主として擔當して頂くことになつてゐるので同幹事宛御希望 御意見などせいぜいお寄せ願つて一署づゝより会誌に貢えて行きたいと思う。(林)

## 「玉押しこがね」兵庫県に産す?

林 匠夫

近着の *Mitteilungen der Münchener Ent. Ges.* の 44/45 (1954/1955) を見た所、チエッコスロバキヤの食糞金龜子虫類の権威 Balthasar 博士が、"Gymnopleurus 属の 1 新種及 1 新亜種" という論文で、何と兵庫県武庫川から *G. (Paragymnopleurus) stipes* ssp. *japonicus* (p. 395) という 1 新亜種を報告されているので吃驚した。もちろん原種は Philippines 產で、採集日付・採集者等は記載されてないので誰がこの材料を送附されたものか分らぬが、こゝ当分糞虫愛好者の間で問題になろうというのだ。

*Eine neue Art und Unterart der Gattung Gymnopleurus, Ill. (Col.),  
90 Beitrag zur Kenntnis der Scarabaeiden (pp. 393 ~ 396).*

## 会名変更の件につきお知らせ

昨年 11 月 6 日開催の昭和 30 年度大会において、当会々名の変更につき討論されましたが結論は得られず、結局幹事会に一任となりました。その後数回幹事会を開き色々検討いたしましたが、既に御承知の通り当会から「原色日本昆虫図鑑(山)」を発行し、会名も広く日本全国に知れわたつていますので、当分の間現状のまゝとすることに決定しましたのでお知らせいたします。これは東京方面の会員か

ら「近畿甲虫同好会」と云う会名では、近畿地方のファウナその他を究明する地方的な会の如き感をいたぐるので、会名を変更されたら如何との御意見からでございました。しかし機関誌の内容を御覧願えばそのような会ではないことは一見明らかであり、会名は單に近畿地区に事務所を有することから名付けられにものでございますのでせいぜいお知りの虫友諸氏に御入会を御勧誘下さるよう併せてお願ひいたします。

### 「ねじればね」希望欄

本誌の一定紙面を会員諸賢のため開放、あらゆる希望をのせて行きたいと思ひます。又これを読んでその希望をかなえてあげられる方は進んでその方と御連絡下さい。多くのものを収容したいと思ひますから文面は簡単にはがります。長いのは内容を変えなり程度に短縮させて頂きます。

○ 全国の中好会機関誌にのつた「天牛類の地方目録其他の別刷を希望します。御礼に拙著別刷の適当なものを差上げます。 (大阪市 住吉区 墓五丁三ノセー 林 匠夫)

○ 全国各地のコウモリ類に寄生するノミを求む。  
(但しアルコール70%に液漬のもの)

(西宮市 浜脇町74 阪口 喬平)

### 保有社よりお知らせ

申込先  
大阪市東区内久宝寺町1の20  
振替口座 大阪12346番

まよおしし費ではま程ざやをで結御御ろいにりかり收編日本さ  
すう申ま上ご御、しやいく別増巻迷謷がた増、うま錄は昆きに  
お込しげ。希初たつま銅版と惑入、し精緻のしも、虫  
願めたる円盤版。とし竟と改なをのそま改和申たれ圖刊行  
い下のこでの御つ兒た卓し訂りお方のし訂三入でも等  
申さでとお向謷き成が備てのまかにたた版十入で、のに上  
しい、にわに入まい、中発分しけはめ。を年れ、のに上  
上ま何いけはのしたこで行だたす大初と發六も著が罗  
げす卒た申奥方てしのごすけのる銅版に行月あ者あ少虫色

## 会費納入方法変更につきお願ひ

当会会費は規約により年額300円と定められておりますが、オ5巻（1950年度中に発行すべきもの）が1950年8月・1952年3月と3ヶ年にまたがり、オ6巻（1951年度中に発行すべきもの）が1952年8月から1955年12月まで足かけ4ヶ年かゝってしまいました。その間会費は各巻300円づつしか頂戴しておらず、即ち正年によらず巻数により処理してまいりました。本年度から馬力をかけておくれを少しずつでも取戻したいと計画しております。機関誌「昆虫学評論」の発行があれを取戻し、年2回の正常な発行になりますまで、会費は巻数によりお納め願うことになりましたので何卒御諒承の程御願ひ申上げます。

本年は4月末、8月末、12月末の3回発行を計画しており、4月・8月にてオワ巻を完了、12月発行分はオ8巻オ1号でございます。それ故現在お納め願つております会員300円はオ7巻に充當いたし、12月には改めてオ8巻分300円を御請求いたしますので事情御賛察の上よろしくお願ひ申上げます。（会計担当幹事 大倉正文）

## 昭和30年度收支計算書

収入之部	支出之部
入会費 900-	印刷費 5,750-
会費 7,500-	通信費 7,372-
バツクナバー貢代 4,000-	消耗品費 1,797-
原色昆虫図鑑部料 170,000-	大会費 3,300-
大会会費 2,400-	幹事会費 1,740-
雑收入 40143	図鑑出版紀念会費 13,524-
前期繰越金 13,008.57	図鑑執筆者謝礼 100,000-
合計 198,210-	図鑑購入費 26,400-
差引 -	雑費 440-
次期繰越金 37,887-	合計 160,323-

註. 昆虫学評論オ5巻オ6~9輯の印刷費￥39,600-は、本年度には含まれてありません。

近畿甲虫同好会・神戸市兵庫区御影町天神山46

本誌に関する御希望・御意見  
守口市民池町34 河野洋宛